

# 2024年 第2四半期 決算説明会

2024年8月5日

コカ・コーラ ボトラーズジャパン  
ホールディングス株式会社

代表取締役社長 カリン・ドラガン

代表取締役副社長CFO ビヨン・イヴァル・ウルゲネス

(2024年8月2日 当社ウェブサイト掲載)

ハッピーなひとときを、  
ボトルから。  
We bottle happy moments.

  
BOTTTLERS JAPAN HOLDINGS INC.



*Coca-Cola* BOTTTLERS JAPAN INC.

*Coca-Cola*  
BOTTTLERS JAPAN INC.

# コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社

## 2024年 第2四半期 決算説明会

2024年 上期 業績

マーケティングアップデート

今後の見通し

# 本日のハイライト

- ❖ 上期の事業利益は対前年40億円の増益。年間の事業利益目標に対し、計画どおり。第2四半期も増収増益。
- ❖ トップライン成長が引き続き増益に貢献。夏場に向け強化してきたチャネルごとの活動が順調で、数量を成長させながらケース当たり納価を改善。上期の売上収益は1.8%の成長。
- ❖ 変革は計画どおりに進捗し、足元の効果創出と基盤構築の両面で成果を創出。また、営業分野の変革の一環として、販売機器における協働を発表。中長期のコスト削減と提供価値増大を目指す。
- ❖ 下期も収益性重視の方針のもと、最需要期に営業活動を最大化させ、通期業績目標の達成を目指すとともに、来年以降の成長に向けた活動にも注力。

# 2024年 上期業績

上期業績 (対前年)

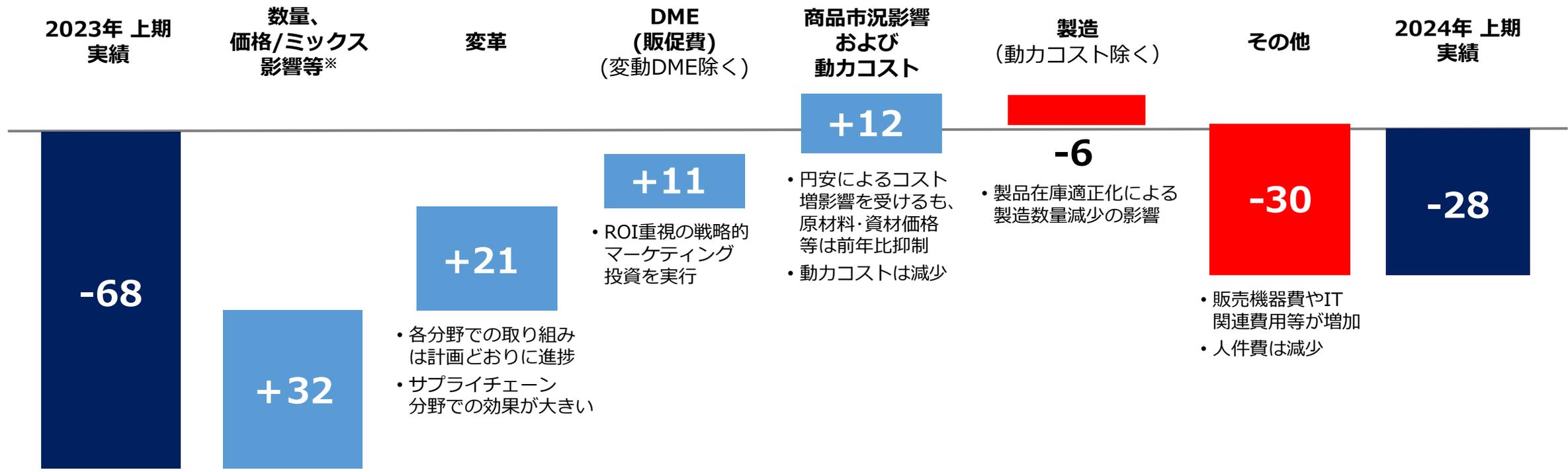
## 業績の改善トレンドは継続し、第2四半期・上期ともに増収増益

単位：百万円

	2024年 上期 実績	2023年 上期 実績	増減	前年比
売上収益	411,455	404,109	+7,345	+1.8%
販売数量 (百万ケース)	232	230	+2	+1%
うち清涼飲料販売数量 (百万ケース)	230	227	+3	+1%
売上原価	230,251	227,313	+2,938	+1.3%
売上総利益	181,204	176,797	+4,407	+2.5%
販管費	183,971	183,212	+759	+0.4%
事業利益 (△損失)	△2,791	△6,763	+3,972	-
営業利益 (△損失)	1,207	△6,529	+7,736	-
親会社の所有者に帰属する当期利益 (△損失)	△297	△3,947	+3,650	-

第2四半期(4-6月)の業績は参考資料をご覧ください。

# トップライン成長と変革効果により、事業利益40億円増益を達成



- 一連の価格改定の効果等により、ケース当たり納価が改善
- 数量成長+1%が貢献

- 各分野での取り組みは計画どおりに進捗
- サプライチェーン分野での効果が大きい

- ROI重視の戦略的マーケティング投資を実行

- 円安によるコスト増影響を受けるも、原材料・資材価格等は前年比抑制
- 動力コストは減少

- 製品在庫適正化による製造数量減少の影響

- 販売機器費やIT関連費用等が増加
- 人件費は減少

(単位：億円)	上期 実績	対前年	通期計画
設備投資	96	-103	339
減価償却費	229	-2	470

単位：億円  
(単位未満四捨五入)

IFRS16が適用される不動産賃借物件への投資額は上記の数値には含まれておりません。

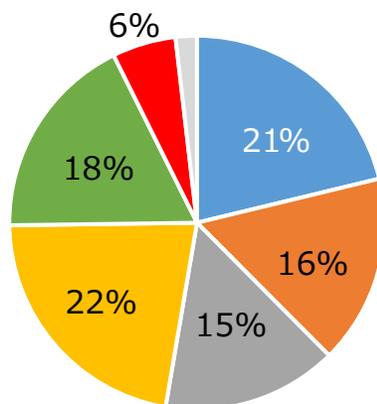
※営業活動にともなう限界利益の増減。変動費、IFRSによる売上控除等を含んでおります。

# ケース当たり納価改善トレンド継続のなか、数量成長ペースが加速

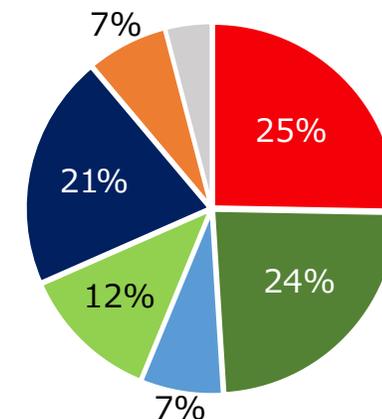
- 販売数量は、価格改定による影響を受けるも、人出増加や効果的な営業施策の貢献により、1%増。
- ケース当たり納価は、価格改定効果により改善傾向が継続。
- CVSは、新製品やカスタマー限定製品の展開強化などにより成長。VMは、価格改定の影響を受けるも、強固なシェア基盤やデジタル施策が貢献し、前年並みを維持。R&Fは、外食需要の取り込みなどにより成長。オンラインは、カスタマーと連携したプロモーションなどが成長に貢献。
- 炭酸は、「コカ・コーラ」が貢献。茶系は、フルリニューアルした「綾鷹」が全体の成長を力強くけん引。

## 販売数量：+1%

チャンネル	数量	ケース当たり納価(円)
スーパーマーケット (SM)	-6%	+81
ドラッグストア・量販店 (D&D)	前年並み	+82
コンビニエンスストア (CVS)	+6%	-10
ベンディング (VM)	前年並み	+66
リテール&フードサービス (R&F)	+5%	+4
オンライン	+18%	+26



カテゴリー	数量
炭酸	+2%
茶系	+4%
スポーツ	-1%
水	-4%
コーヒー	-1%
果汁	+8%



(注)販売数量にはアルコール飲料は含まれておりません。ケース当たり納価にはIFRS適用による売上控除は含まれておりません。販売数量・売上集計方法の標準化を進めており、過去の説明会資料で提供したデータと若干の相違が発生することがあります。

第2四半期(4-6月)の販売数量は参考資料をご覧ください。

## 収益性重視の活動が金額シェア成長と価格プレミアム維持に貢献

- ↑ チャンネルトータルの金額シェアは、成長トレンドを維持し、0.3ポイント増。
- ↑ ベンディングの金額シェアはプラス成長に回帰。手売りチャンネルでは、新製品による数量貢献などが金額シェアトレンドの改善をけん引。コンビニエンスストアの金額シェアはプラス成長が継続。
- ↑ 当社製品は業界平均に対し価格プレミアムを維持。また、大型PETの店頭小売価格は、前年10月の価格改定の効果により、改善トレンドが継続。

市場シェア (1-6月、対前年、ポイント)	金額	数量
トータル(当社エリア)	+0.3	-0.2
うち、ベンディング	+0.3	+0.6
うち、手売りチャンネル(OTC)	-0.2	-0.4

出典：日本コカ・コーラ調べ

店頭小売価格 (1-6月、円/本)	業界平均比	前年比
小型PET	+9.6	-1.5
大型PET	+32.3	+14.4

出典：インテージSRI+ 清涼飲料水市場 小型PET製品(351~650ml)および大型PET製品(1.251L~)  
 当社販売エリア 2024年1月~6月  
 業界平均比：当社平均販売単価/本および業界平均販売単価/本の比較  
 前年比：当社平均販売単価/本の前年比較

# 最需要期に向け、チャネルごとに市場実行を最大化

## ベンディング

### 夏場の需要獲得に向け 炭酸・茶系を中心に活動強化

- コカ・コーラや新綾鷹のキャンペーン強化

### Coke ON活用による需要の喚起

- クロスチャネルのキャンペーン実施により自動販売機の利用促進
- Coke ON Wallet等の機能拡充



## OTC (手売り)

### 綾鷹フルリニューアル活用 による売場獲得の強化

- 魅力ある売場づくりや効果的なキャンペーン実施
- 消費者ニーズに応じた戦略的なラインナップ展開

### カスタマーに応じた専用 商材の展開

- ダブルブランド製品や限定フレーバーの戦略的投入



## フードサービス

### 取り扱い製品の拡大

- コカ・コーラゼロの強化
- 市場分析から得たインサイトに基づく提案実施
- オリンピック、大阪・関西万博のキャンペーン実施

### 新規取引獲得活動の強化

- 成長業態や新業態に注力
- カスタマーニーズに応じた製品や販売プログラムの提案



# 変革は効果創出と基盤構築の両面において、順調に進捗

## ベンディング

### 自動販売機オペレーションの効率化

- 訪問ルートと訪問頻度の改善により、ルート数を削減
- より効率的なオペレーションの実現に向け、ピースピッキングのモデル構築とテスト実施
- 自動販売機ごとの収益性可視化による、設置ポートフォリオの改善

### ベンディングDXの推進

- QRコード決済機能拡充やスマートモデム展開は計画どおり進捗



## サプライチェーン

### 製造分野における生産性向上

- 「地産地消モデル」に向けた多品種・小ロット生産による、柔軟な供給体制の構築
- 各拠点での生産性向上による製造能力の拡大

### 物流ネットワークの改善

- 全体最適化による輸送距離・タッチ数の削減
- カスタマー等との連携強化

### S&OPプロセスの精度向上

- 夏場に向け増加する出荷量に効率的に対応
- 新製品導入時のプロセス改善や、カスタマーとのより強固な連携を推進

# マーケティングアップデート

# 強力なキャンペーンとアクティベーションにより売上高と金額シェア成長

## コア

綾鷹コア  
フルリニューアル  
新キャンペーン



コカ・コーラ×マーベル  
ザ・ヒーローズ



ジョージア  
新キャンペーン



## 新製品

やかんの濃麦茶  
機能性表示食品



ジョージア  
プライム ブレンド



甘くない檸檬堂  
無糖レモン



## 体験型マーケティング

綾鷹  
イマーシブ  
サンプリング  
イベント



大阪・関西万博  
ポートフォリオ  
プロモーション  
(Coke ON活用)



い・ろ・は・す  
新サスティナ  
キャンペーン  
(水源涵養訴求)



# キャンペーン・新製品を通じて、コアカテゴリーのさらなる強化を図る

## コア

綾鷹コア  
フルリニューアル  
新キャンペーン 第2弾



肉にはコーク！  
サマーキャンペーン



## 新製品

アクエリアス経口補水液ORS  
リニューアルコミュニケーション  
特別用途食品 個別評価型病者用食品



ファンタ  
ヨーグルラッシュ マーブルオレンジ



## 体験型マーケティング

パリオリンピック  
ポートフォリオプロモーション



スプライト  
Waterbomb Tokyo 2024



# 今後の見通し

## 第3四半期の前年のハードルは高いが、今年も力強い増益を目指す

下期の  
主要施策  
および  
進捗状況

### 利益の最大化を軸としたトップライン成長

- 夏場の需要獲得に向け、新製品やキャンペーン活用など営業活動を最大化。7月は前年の反動や天候の影響を受けるなか、販売数量は+3%の力強い成長。
- 価格改定効果を最大化。改定後の出荷価格の維持、数量・ミックス影響の最小化、10月のさらなる価格改定に向けた準備等。
- 最需要期の安定供給に向けたS&OPプロセスの最適な運用。

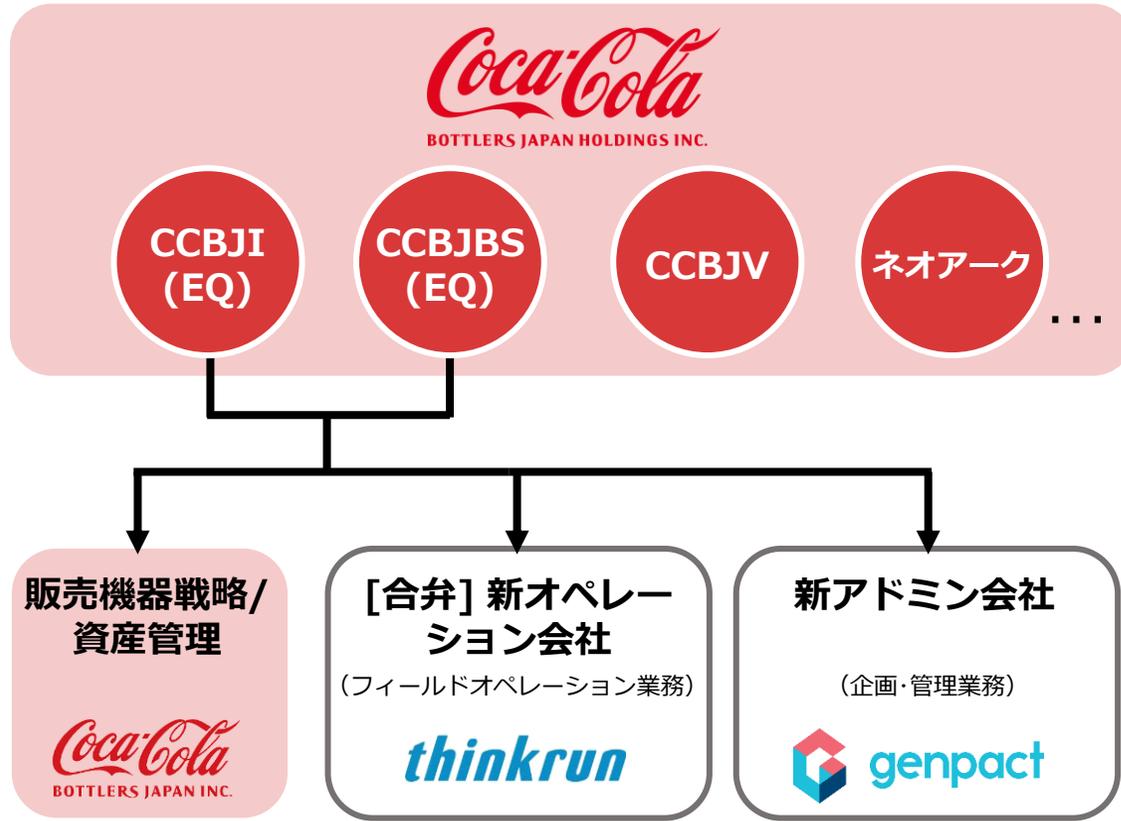
### 変革推進とコストコントロール

- 変革は順調に進捗。年間60億円の効果発現と来年以降の効果創出に向け活動強化。
- マーケティング投資は、持続的な成長に向け強化するも、市場環境とROIを見極めながら適切に実施。
- コカ・コーラシステム連携の調達により、コモディティ・為替影響を継続抑制。

# 営業変革：将来の効果創出に向け、販売機器サービス組織を再編

変革の概要：オーナーシップからパートナーシップへ

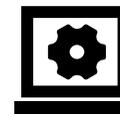
期待できる効果



強固なパートナーシップに基づく協働により、  
高品質で競争力のあるサービスを提供



さらなる成長が見込まれる分野に**経営資源を集中**



各社の知見や経験の活用、新たなテクノロジーやプロセス導入による**効率化・業務品質向上**



**コスト削減**とステークホルダーへの**提供価値増大**を実現

(2025年1月に稼働開始)

※ EQ (Equipment) : 販売機器、CCBJI : コカ・コーラ ボトラーズジャパン(株)、  
CCBJBS : コカ・コーラ ボトラーズジャパンビジネスサービス(株)、  
CCBJV : コカ・コーラ ボトラーズジャパンベンディング(株)

- ❖ 事業利益は順調に積み上がり、上期で対前年40億円の増益。
- ❖ 収益性重視の方針のもと、最需要期に最高のパフォーマンスをあげ、通期事業利益目標100億円の達成を確実なものとする。
- ❖ 10月の価格改定や中長期的な利益成長に向けた変革施策など、重要な取り組みが進捗。「Vision 2028」の初年度として、来年以降の成長に向け大きく前進。



THANK YOU

コカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社 IR部

ir@ccbji.co.jp

<https://www.ccbj-holdings.com/ir/>

Happy moments  
from the bottle.  
We bottle happy moments.

*Coca-Cola*  
BOTTLERS JAPAN HOLDINGS INC.

# 参考資料

# 第2四半期 (4-6月) 業績 (対前年)

単位：百万円

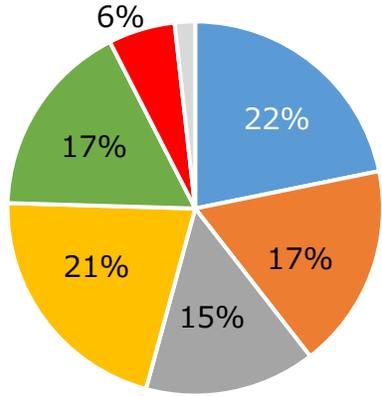
	2024年 Q2 実績	2023年 Q2 実績	増減	前年比
売上収益	224,926	222,046	+2,880	+1.3%
販売数量 (百万ケース)	128	126	+2	+2%
うち清涼飲料販売数量 (百万ケース)	127	125	+2	+2%
売上原価	125,164	123,990	+1,174	+0.9%
売上総利益	99,763	98,056	+1,706	+1.7%
販管費	94,683	95,211	-528	-0.6%
事業利益	5,056	2,674	+2,382	+89.1%
営業利益	4,277	2,631	+1,646	+62.6%
親会社の所有者に帰属する当期利益	2,600	2,513	+88	+3.5%

(注)販売数量について、一部製品の集計範囲および区分等の変更にともない、2023年の実績値を遡って修正しております。

# 清涼飲料チャンネル/カテゴリ/パッケージ別販売数量 (対前年)

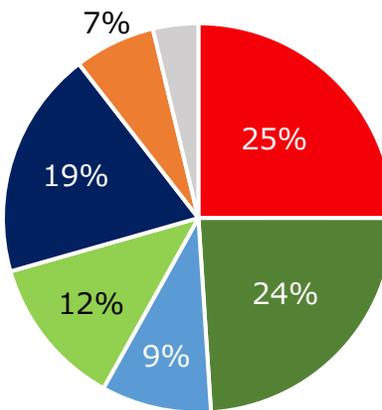
第2四半期(4-6月)販売数量：+2%

## チャンネル別



チャンネル	数量	ケース当たり納価(円)
スーパーマーケット (SM)	-3%	+62
ドラッグストア・量販店 (D&D)	+5%	+64
コンビニエンスストア (CVS)	+5%	-24
ベンディング (VM)	前年並み	+65
リテール&フードサービス(R&F)	+3%	+9
オンライン	+15%	+14

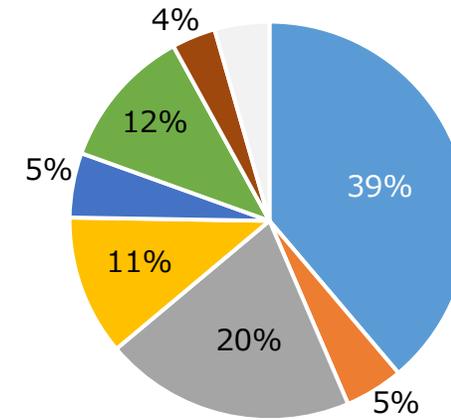
## カテゴリ別



カテゴリ	数量
炭酸	+4%
茶系	+7%
スポーツ	-1%
水	-2%
コーヒー	-2%
果汁	+5%

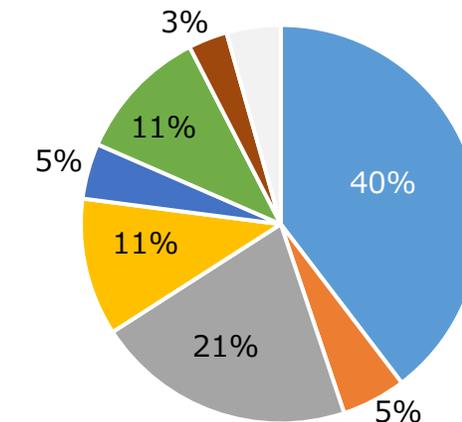
## パッケージ別

### 上期(1-6月)



パッケージ	数量
S-PET	+6%
M-PET	+16%
L-PET	-11%
缶	前年並み
ボトル缶	+1%
シロップ	+9%
パウダー	+11%

### 第2四半期(4-6月)



パッケージ	数量
S-PET	+5%
M-PET	+17%
L-PET	-6%
缶	+3%
ボトル缶	-2%
シロップ	+7%
パウダー	+10%

S-PET：650ml以下/L-PET：1.5L以上

(注)販売数量にはアルコール飲料は含まれておりません。ケース当たり納価にはIFRS適用による売上控除は含まれておりません。販売数量・売上集計方法の標準化を進めており、過去の説明会資料で提供したデータと若干の相違が発生することがあります。

# ESGの取り組み：価値創出につながるイニシアティブを推進

## 各種主要取り組み

### 環境・地域社会への取り組み

- ▶ アルミ缶の水平リサイクル「CAN to CAN」の取り組み拡大※
  - 缶胴に加え、キャップにも100%リサイクルアルミ素材を使用し、1缶当たり約37%のCO<sub>2</sub>削減
- ▶ 「ボトルtoボトル」連携拡大
  - レゴランド®・ジャパン・リゾート、2024世界トライアスロン横浜大会などで実施
  - 柳泉園組合(東京都)と新たに連携
- ▶ 「DE&Iサポート自販機」の展開を開始



### 人的資本の強化/DE&Iの推進

- ▶ 人的資本の強化を通じて「Vision 2028」実現に貢献するため、役員会議の約25%を人事戦略の議論の場とし、確実に遂行
- ▶ 当社が目指す多様性の姿を表現した新DE&Iロゴマークとステートメントをリリース
- ▶ 東京レインボープライドに3年連続で協賛参加



### 外部からの評価

- ▶ FTSE Blossom Japan Indexに初選定、FTSE Blossom Japan Sector Relative Index、FTSE4Good Index Seriesに選定
- ▶ 「DCエクセレントカンパニー」を2年連続で受賞
- ▶ 「女性が活躍する会社BEST100」食料品部門において、1位に選出



## 価値創出



ビジネス  
機会拡大



環境負荷  
低減



地域社会  
発展

※ 対象SKU：「ジョージア 香るブラック」400ml、「ジョージア 香る微糖」370ml、「ボナクア(軟水)」400mlの3製品



ハッピーなひとときを、  
ボトルから。

安全・安心な 1 本をつくり続けたい。

あらゆるシーンで新しいおいしさやハッピーなひとときを届け、  
価値を創造し、限りある資源を大切に、次のつくるにつなげたい。

多様な人材が力を合わせ、さまざまな変革を起こすことで、  
あふれるほどのハッピーを生み出し、  
豊かな生活に貢献できると信じています。

人と地域社会と自然環境に寄り添う仕事をしている誇りと使命を胸に、  
今日も私たちは走り続けます。



# 将来の業績に関する見通しについて

本資料に記載の事業計画、業績予想、および事業戦略は、本資料配布時点での情報を考慮した上でのコカ・コーラ ボトラーズジャパンホールディングス株式会社（以下CCBJHまたは当社）経営陣の仮定および判断に基づくものです。これらの予想は、以下のリスクや不確定要因により、実際の業績と大きく異なる可能性があることに留意してください。

なお、リスクおよび不確定要因は以下のものに限られるものではありません。CCBJHの有価証券報告書等にも記載されていますので、ご参照ください。

- ザ コカ・コーラ カンパニーおよび日本コカ・コーラ株式会社との契約
- 製品の品質・安全性
- 市場競争
- 天候、災害、水資源等の自然環境
- 法規制
- 情報漏えい・消失
- 個人消費動向、為替レート、原材料費、保有資産等の時価等、経済状況の変化による影響
- 経営統合、業務プロセスの効率化・最適化による影響
- 上記以外の不確定要因

本資料の情報は、情報の提供を目的としており、CCBJH発行の証券への投資勧誘を目的するものではありません。

また、CCBJHは新しい情報あるいは将来のイベントにより、本資料の内容を更新する義務を負いません。みなさまにおかれましては、CCBJH発行の証券に投資する前に、ご自身の独立した調査に基づいて判断をお願いいたします。